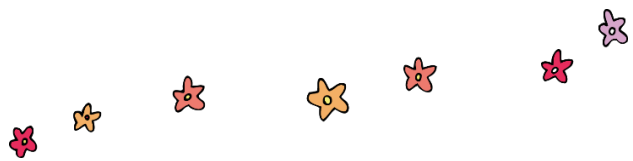




2021 年度

家庭教育支援事業の記録



家庭での教育は、子どもが自分らしく生きる土台となる自己肯定感を育み、基本的な生活習慣や自立心を育てていくのに大きな役割を担っています。

杉並区教育委員会では、子育てで感じる悩みをテーマとした家庭教育講座（主催）や、地域の団体が開催する家庭教育講座を共催することで家庭教育を支援しています。ともに学び合い、学んだことを教え合う、そのような場を増やしていくことで家庭教育を支える地域づくりを進めています。

杉並区教育委員会事務局
学校支援課 家庭・地域教育担当

令和3年度の家庭教育支援事業

家庭教育講座（教育委員会主催）

思春期の子どもとのコミュニケーション ～幸せな自立をサポートする～

日時：令和4年1月28日（金） 10：00～11：45	
開催方法：対面（会場：杉並区役所 第4会議室）とオンライン	参加人数：10名
講師：NPO法人ハートフルコミュニケーション 副理事長 平松 容見子	

小中学生の保護者、思春期の子どもに関わる方を対象に開催しました。

思春期は、これから自立に向かう子どもが「心」を育てる大切な時期であること。幸せな自立に向けてこの時期には「愛すること」、「責任」、「人の役に立つ喜び」という3つの力（価値観）を育むことが大切だと学びました。それにより自己肯定感や問題解決能力、良好な人間関係を築く力といった、子どもの「生きる力」の開花に繋がっていきます。

そのためにまずは、子どもを理解しコミュニケーションをとり、親が子どもの「コーチ」となることが勧められ、言葉のかけ方など、実際的なコミュニケーションの方法をグループワークで共有することができました。

新型コロナウイルス感染症が急拡大した時期と重なり、会場だけでなくオンライン参加もできるように急遽変更して開催しました。少ない人数ながら、グループ懇談により参加者が思いや悩みを共有できる場となりました。

■参加者の声（参考になったところ）■

- ・大人自身の感情のコントロールの大切さ。
- ・「あなたはどうしたいの？」と本人の気持ちに気づかせる声かけ。
- ・思春期の息子との距離感が難しく、声かけやアプローチの仕方が参考になった。
- ・講師の体験に基づくエピソードが具体的で参考になった。

幼児期に育みたい非認知能力とは -モンテッソーリ教育の考え方に学ぶ-

日時：令和4年2月15日（火） 10：00～11：30	
開催方法：オンライン	参加人数：27名
講師：星美学園短期大学幼児保育学科 教授 井出 麻里子	

募集開始と同時に多数の問い合わせがあり、「モンテッソーリ教育」への興味関心の高さがうかがえました。

長年モンテッソーリ教育の研究に携わる講師を迎え、モンテッソーリ教育の概要から様々な事例、非認知能力を育むために家庭でできる実践方法までわかりやすく話していただきました。一見、大人が困ってしまうような子どもの様々な行動が、実はその後の子どもの成長や発達を大きく左右するものであること、そして、子どもの発達段階に合わせた大人の働きかけによって、子どもの可能性が大きく広がることがわかりました。

モンテッソーリ教育を知ること、子どもの見方が変わり、大人の行動が変わるきっかけとなるのが本講座のねらいでしたが、「参加して良かった。」「子どもの見方が変わり、自分を省みるきっかけになった。」という感想が寄せられました。なお、感染症対策としてオンラインにて開催しました。

■参加者の声■

- ・モンテッソーリ教育の根幹を知ることができ、具体的な声かけの方法、遊びを学べた。
- ・子どもが主体的に動けるような言葉かけに気をつけようと思った。
- ・子どもが深い集中ができることの大切さを感じました。大人の都合で遮ってはいけないと自戒した。
- ・聞いた話を頭に入れた上で子どもに接すると、困る気持ちが全く別の気持ち（発達を実感）になった。

家庭教育講座（地域団体主催 教育委員会共催）

不登校に関する情報交換会

主催団体名：ミモザの花～子どもの不登校を考える会

	第1回	第2回
テーマ	子どもが「学校へ行きたくない」と言ったら	不登校の子どもの高校進学
開催日	令和3年6月19日	令和3年10月9日
会場	産業商工会館	阿佐谷地域区民センター
参加人数	25名	36名
講師	NPO法人ゆとりある 理事長 久下沼 諒 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲	元中学校教員・元適応指導教室指導員 平野 倫明 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲

■参加者の声■

- ・実際に不登校を経験した講師のお話を聞いてよかった。
- ・不登校経験者の高校生の話を聞き、子どもの気持ちがいさし理解できた。
- ・不登校に悩む人が大勢参加していて、自分ひとりではないことがわかり勇気づけられた。
- ・チャレンジスクール、エンカレッジスクールなどの存在を初めて知ったので、これから勉強しなければ、と思った。
- ・「新しい環境がバラ色の世界とは限らない」という講師の言葉が心に染みわたった。

思春期の子どもの接し方

主催団体名：思春期・発達障がいの会 ajuga

	第1回	第2回
テーマ	思春期の子どもの接し方	
開催日	令和3年7月26日	令和3年10月25日
会場	高井戸地域区民センター	西荻地域区民センター
参加人数	28名	33名
講師	思春期・発達障がいの会 ajuga 会長 飯塚 ひろみ	

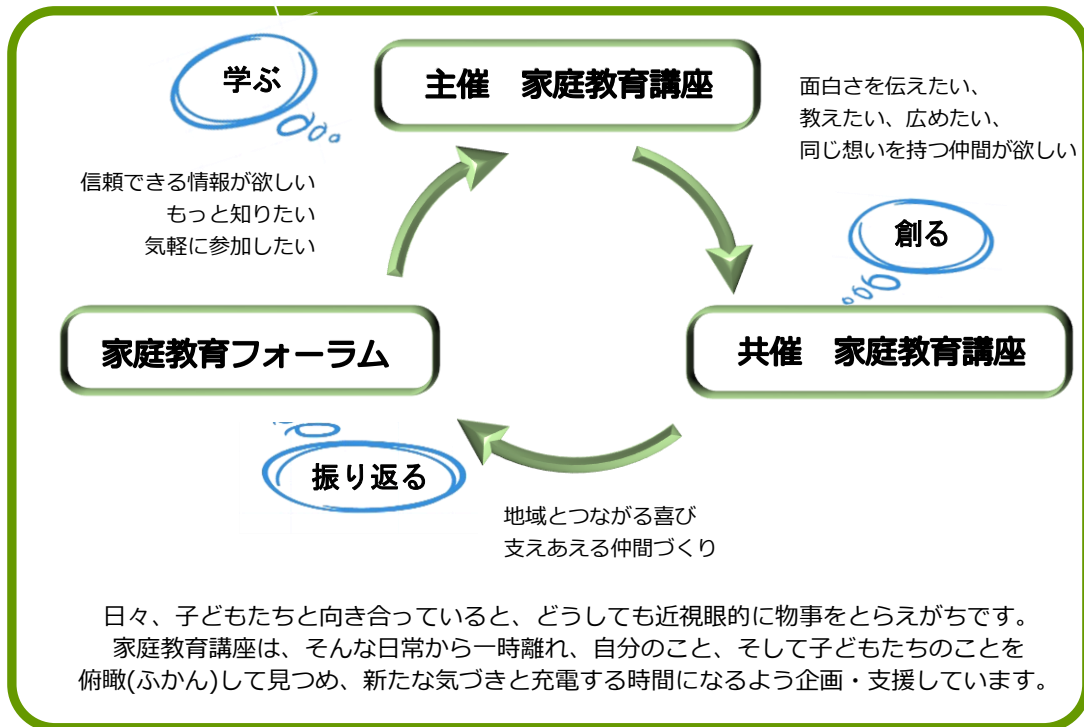
■参加者の声■

- ・思春期に子どもが反抗したり甘えたりを繰り返す「両面性」について知らなかったので参考になった。
- ・思春期の子どもへのコミュニケーション方法が多数あると知り、まだやれること・できることがあるとわかった。
- ・子どもの好きな話題をふんだんにする「雑談力」を高めようと思った。
- ・まだ反抗期に入っていないが、よく理解でき心の準備ができました。
- ・ネット・ゲームの基礎知識とスマホを持たせる時に気を付ける事をくわしく教えてもらって良かった。

家庭教育フォーラム

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を見送りました。

杉並区教育委員会が提供する家庭教育支援プログラム

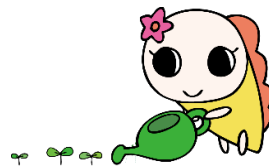


教育委員会では、「子育てについて新たな視点や気づきを得られる場」「仲間と思いを共有し、日々の活力を得られる場」として、**家庭教育講座を主催**しています。

また、子どもにかかわる大人たちが地域の中で自ら学びの場をつくろうと思ったとき、**教育委員会共催として家庭教育講座**を開催できるように支援をしています。

さらに、講座を主催する皆さんの学びと情報交換の場として、**家庭教育フォーラム**を開催してきました。

学びが循環し、地域で支えあえる関係を育めるような仕組み作りを行っています。



2021年度 家庭教育支援事業の記録

令和4年9月 発行

編集・発行 杉並区教育委員会事務局 学校支援課

家庭・地域教育担当

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

TEL (03) 3312-2111

登録印刷物番号

04-0065

★杉並区のホームページでご覧になれます。<https://www.city.suginami.tokyo.jp>